

2024年5月14日

各 位

会 社 名 株式会社 SANKO MARKETING FOODS
本店所在地 東京都中央区新川一丁目 10 番 14 号
代 表 者 名 代表取締役社長 長澤 成博
(コード番号 2762 東証スタンダード)
問 合 せ 先 常務取締役 富川 健太郎
TEL 03-6861-9630 (代表)

2024年6月期 通期連結業績予想の修正に関するお知らせ

当社は、本日開催の取締役会において、最近の業績の動向等を踏まえ、2024年2月13日に公表いたしました2024年6月期通期連結業績予想(2023年7月1日～2024年6月30日)につきまして以下のとおり修正いたします。

記

1. 連結業績予想の修正について

(1) 2024年6月期通期連結業績予想の修正(2023年7月1日～2024年6月30日)

(単位:百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想(A)	11,000	30	25	15	0.60
今回修正予想(B)	9,356	△652	△645	△723	△29.67
増減額(B-A)	△1,643	△682	△670	△738	△30.27
増減率(%)	△14.94%	—	—	—	—
(ご参考)前期実績 (2023年6月期)	7,119	△748	△749	△784	△40.94

(2) 連結業績予想修正の理由

当社グループの連結業績は、新型コロナウイルス感染症拡大の鈍化にともない経済・社会活動の制限が緩和され、個人消費やインバウンド需要の回復等が下支えとなり一時持ち直しの動向がみられ、当第3四半期連結累計期間(2023年7月1日～2024年3月31日)の売上高は前年同期比37.2%増加となりましたが、一方で原材料価格やエネルギー価格の高騰、急激な円安進行による物価高、さらには福島第一原発の処理水問題に端を発する水産物の輸出制限措置が開始される

など依然として先行き不透明な状況が続いております。このような状況の中、当社グループは、事業再構築の進捗を確実に進めるために、①飲食の既存業態の出店計画を補完する東海エリア9店舗の地位承継に伴うコスト、②国内市場から海外市場へ事業範囲を拡大するためのベトナム事業・貿易事業の事業化コスト、③自社船団である SANKO 船団の形成コスト、④水産6次産業化モデルの中核となる商品開発コスト、⑤水産事業の販売拡大のための販路開拓コストなどが先行して発生したことから、2024年6月期通期連結業績予想の修正を行うこととしました。

(飲食事業について)

飲食事業においては、下表のとおり飲食全店で前年同月比100%を超えており、順調に売上が回復しております。特に業績回復が著しい「アカマル屋」は、コロナ禍で変化したお客様ニーズにマッチするブランドとして成長を続けております。水産の6次産業化を目指す当社グループのシナジー効果を最大化するために開発した「アカマル屋鮮魚店」は鮮魚店併設型の大衆酒場であり、SANKO 船団の取り組みにより、魚価の高騰に関わらず、原価の抑制を実現するとともに、魚本来の価値を伝えることで、お客様満足ならびに漁業者の生活の安定と向上の両方を達成するブランドとして育成しております。当社の成長戦略は、コロナ禍において戦略的に撤退した飲食店舗の売上高を補完することであり、水産サプライチェーンの構築とともに、これを最大活用した（「アカマル屋鮮魚店」等の）店舗出店が達成されることで、会社の業績回復に寄与するものであると認識しております。

【飲食全店 既存店 売上高 前年同月比】

	2023年 7月	2023年 8月	2023年 9月	2023年 10月	2023年 11月	2023年 12月	2024年 1月	2024年 2月	2024年 3月
売上高	131.8%	144.9%	124.5%	114.8%	112.7%	110.8%	103.5%	107.2%	103.2%
客数	118.3%	126.3%	118.9%	118.7%	111.0%	107.5%	101.4%	103.9%	100.4%
客単価	111.4%	114.8%	104.7%	96.7%	101.5%	103.0%	102.1%	103.2%	102.8%

他方で、新業態の開発を目的として、2023年12月より東海エリアの大型商業施設内フードコート等で産地直送の朝獲れ鮮魚、魚介料理を提供する飲食店9店舗を承継し運営を開始いたしました。運営開始に際して地位承継時に一時的な出店経費が発生したことから、営業利益、経常利益及び当期純利益が未達となりました。これに加えて承継元企業である株式会社牧原水産が自己破産により事業停止となったため、承継店舗の売上高、営業利益、経常利益及び当期純利益に影響が及んでおります。なお、追加の影響額については、必要に応じて適時開示いたします。

(水産・新規事業について)

水産事業においては、漁業者の生活の安定と向上を目的として、2023年9月に下田の漁業者から、漁獲、魚種、相場に関わらず全量買取りする取り組みを開始いたしました。この取り組みをSANKO 船団と称し、2024年3月末日時点で自社船を含めて計5隻（月間漁獲高目標値3.5トン）となり、安全操業のための設備投資や漁業者の生活基盤拡充のための先行支出などSANKO 船団の形成コストが発生しております。また、独自の水産加工商品開発を行うための設備等への支出が発生しております。一方で、この取り組みならではの朝獲れ鮮魚や当社グループ開発加工食品が、当社グループの飲食店舗や鮮魚小売店舗でお客様へ提供し、さらに、外販開拓を行うなど、水産

の6次産業化を成長基盤とする事業構造は順調に進展をいたしました。

また、当社グループは、高い経済成長を続けるベトナムにおいて、ハイエンド顧客のニーズにマッチする日本食レストランを運営するため、ベトナム現地法人与合弁会社（AKIKO SERVICE AND TRADING JOINT STOCK COMPANY）の設立準備を進め、さらに、急激に進行する円安を背景として、国外の成長市場に対して我が国が誇る水産資源等を積極的に輸出するために、2023年12月に貿易ノウハウ・海外ネットワークを有する事業パートナーと合弁会社（株式会社 SANKO INTERNATIONAL）を設立いたしました。これにより、海外事業の事業化コストが発生しましたが、当社グループの水産資源の国内調達力とこれまで培ってきた飲食事業のノウハウを、成長著しい特定の海外市場に展開することで将来の収益の柱となる事業の育成を開始いたしました。

これらの結果、売上高及び営業利益、経常利益及び当期純利益が未達となりました。

当社グループは、アフターコロナにおける持続的成長且つ安定的な収益構造を実現するため、既存の店舗事業の構造改革及び新規事業の立上げに関わる様々な施策を実行してまいりました。2024年6月期の業績見通しは上述の通りであります。今後とも飲食店運営ノウハウを活かした新規事業の立ち上げ、既存の店舗事業及び水産6次産業化の推進により当社グループの企業価値向上に努めてまいります。

以 上